

[シンポジウム]

## 「第2言語習得語用論」

総括

伊藤克敏

従来の Grice や Austin などによる言語行為論は言語共通の「普遍的語用論」(universal or general pragmatics)の研究が主体であったが、Levinson (1983) は最終章で丁寧表現(polite expressions)には普遍的な面はあるが、言語による相違もあり、それが、異文化間の誤解(cross-cultural misunderstanding)を生む可能性があり、言語間の「対照語用論」(contrastive pragmatics)の研究が必要であるとし、ドイツ語と英語の丁寧表現の相違についての研究(House&Kasper,1981)に言及している。そして、その対照語用論研究の成果を第2言語習得の研究に応用すべきであるとし、「応用語用論」(Applied pragmatics)という分野の1部門として位置づけることを提案している(376頁)。

すでに、1980年代初期に定型表現(formulaic expressions)の対照語用論的研究がなされている(Coulmas, 1981)。そして、Argentinian Spanish, Australian English, Canadian French, German, Israel Hebrew 間の complaint, apology, offer, suggestion 等に関する言語行為(speech acts)の対照語用論研究(Cross-Cultural Speech Act Realization Project-CCSARP)を Kasper, Blum-Kulka, House 等が中心になって行っている。1980年代の中頃から第2言語習得における語用論的誤り(pragmatic error or failure)についての研究が盛んになった(Thomas,1983; Eisenstein & Bodman,1986)。そして、第2言語習得の誤答分析研究で用いられていた中間言語(interlanguage)の用語を転用して作成された中間語用論(interlanguage pragmatics)に関する研究が注目されるようになった(House & Kasper,1987)。その研究の一つの集大成が Kasper & Blum-Kulka, eds. (1993)の論文集といえよう。語用論的誤用に関する記述的研究と同時に、語用能力(pragmatic competence)をどうして学習者に効果的に身につけさせ、そして、それがどのように発達して行くのかについての研究が盛んになっている(Rose & Kasper,2001; Kasper 2002)。

オーストラリアの Wierzbicka (2003) は Grice の“maxims”や Brown&Levinson の“Universals of politeness”の理論を批判し、“language specific ways of speaking with dif-

ferent cultural values”の研究の必要性を強調している。語用論の何が普遍的で何が文化特有かについての研究は今後の課題であろうが、第2言語教育においてはL1とL2の語用論的相違の研究は不可欠で、今後、日英語の対照語用論の研究が推進されなければならないし、外国語の語用論的能力養成のための教材や指導法についての研究を深めなければならない。

参考文献

- Eisentein, M. and J. Bodman. 1986. "I Very Appreciate: Expressions of Gratitude by Native and Non-native Speakers of American English." *Applied Linguistics* 7, 167-185.
- House, J. and G. Kasper. 1981. "Politeness Markers in English and German." In F. Coulmas ed. *Conversational Routines: Exploration in Standardized Communication Situation and Prepatterned Speech*. 157-158. The Hague: Mouton.
- Kasper, G. 2002. *Pragmatic Development in a Second Language*. Malde, MA.: Blackwell.
- Kasper, K.R. and S. Blum-Kulk. eds. 1993. *Interlanguage Pragmatics*. Oxford: Oxford University Press.
- Rose, K.R. and G. Kasper. 2001. *Pragmatics in Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Thomas, J. 1983. "Cross-cultural Pragmatic Failure." *Applied Linguistics* 4, 91-112.
- Wierzbicka, A. 2003. *Cross-cultural Pragmatics: The Semantics of Human Interaction*. Berlin: Mouton de Gruyter.